

幼小中一貫研究だより vol.6

「光輝(かがやき)」視点の保育・新領域「光輝(かがやき)」で
資質・能力を働かせ、輝いている子供たちの様子をお届けいたします!

「受容と共感」で、レジリエンスを育てる

研究主任 広兼 睦・森 清成・中村 勝

本年度の研究テーマは、「人とのかかわりの中でレジリエンスの育成をめざす幼小中一貫教育カリキュラムの研究—子供の受容と共感を促す手立てに着目をして—」でした。私たち教員は、年度当初子供たちにどのような力をつけてほしいかと議論をしました。その中で、共有したこととして、「粘り強さをもっと高めたい」「人と一緒にやり遂げる経験を味わってほしい」「色々な人の立場になって考えることができるようになってほしい」など、レジリエンスの資質・能力に関する内容が多く挙がりました。また、保護者の方からのアンケートの結果なども考慮した結果、「レジリエンス(逆境にさらされても適応し、目標を達成するために再起すること。)」の資質・能力をより高めることを目標としました。

そのための手立てとして、「受容と共感」をキーワードとして、教員一人一人が「受容と共感」のある学びの風土を意識しました。受容と共感を「自分の思いとまわりの思いを大切にしながら、色々な立場から相手の気持ちや考えを受け入れ、寄り添うこと」と捉え、教員は意識して教育活動に取り組みました。そして、多様な人とのかかわりを重視することで、「レジリエンス」の資質・能力である「困難な状況においても挑戦し続けること」「公正な態度をもって、価値観の異なる他者と協働すること」「1つの出来事や事実について多くの異なる視点から違う見方をすること」の3つの力を高めることに重点を置きました。

1年間、校種や学年の枠を超えて、交流活動を行うことによって、子供同士、教員同士の豊かなかかわりを生み出すことができました。その中で、大切にされたことは、

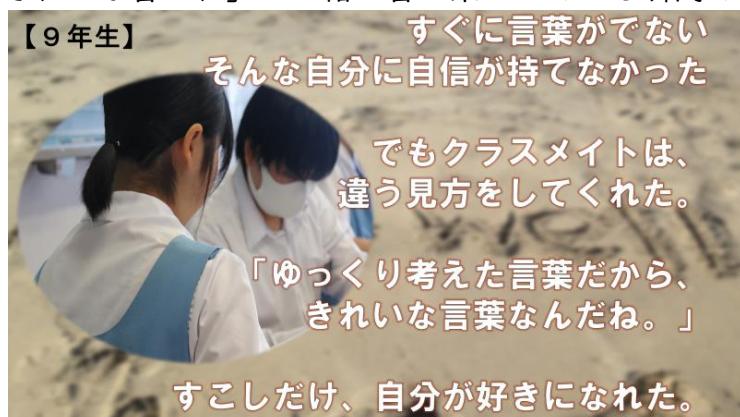
- ①努力(過程)を承認すること
- ②失敗を学習・成長のチャンスと考え、肯定的な声掛けをすること
- ③子供の選択や挑戦を促す多様な学習環境を設定すること

の3つです。これらの3つは、幼小中全ての教員で共有し、子供たちの成長を見取ってきました。

これまで、ドキュメンテーションという手法を用いて、子供たちの素敵な姿を集め、教員同士や子供たちと共有してきました。いくつか紹介します。



この写真は、1年生の音楽の時間の一場面です。トライアングルを順番にならしてみる活動をしていると、ある子が「まだ、やりたい!」と言って、楽器をわたすことを嫌がりました。すると、一方の子が「じゃあ、いっしょにならそうか」と声をかけました。すると、ある子は「うん」と言って、ビーターを渡しました。この写真は、「きれいな音だね」と一緒に音を楽しんでいる瞬間です。



この写真は、光輝の時間で「自尊心を高める」をテーマとした授業です。自身の短所について考え、それを相互にリフレーミングする(肯定的に言い換える)活動を行いました。他者の考えを受容し、気持ちに共感し、そして、別の考えを模索する中で、互いを大切にできる関係を目指しました。

今年度の成果をもとに、来年度も子供たちの挑戦と成長をたくさん見つけることのできる研究を進めていきます。



幼小中一貫研究だより(カラー版)

幼小中一貫研究だよりをご覧いただきありがとうございます。
学校園ホームページから、カラー版を閲覧できます。
よろしければぜひご覧ください。



学校園ホームページ「幼小中一貫研究だより」URL
https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara/R6kenkyudayori

幼小中一貫研究だよりの アンケートにご協力ください

幼小中一貫研究だよりをご覧いただきありがとうございます。
子どもたちのよりよい学びにつなげるため、こちらのアンケートにご協力をお願いいたします。



アンケートフォームURL
<https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=3VQExGOyJkmGjY4SZA03UKpYIHZnZZ1AjvyvddUtsUIUQk5BMFpMR0NXNUc2Sk1LWVI2RUIDR01TWi4u>